

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的研究（開拓）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20502

研究課題名（和文）医療アーカイブズの構築と利用環境の整備に関する先導的研究 九州大学診療録を材料に

研究課題名（英文）Pioneering research on the construction of medical archives and the development of usage environment - using the medical records of Kyushu University

研究代表者

折田 悦郎（ORITA, Etsuro）

九州大学・大学図書館・協力研究員

研究者番号：10177305

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 19,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、九州大学が保有する九大診療録等を材料に、医療アーカイブズの公開・利活用に関する調査・研究を行い、その制度設計を行ったものである。九大診療録は、歴史的・学術的に貴重な資料でありながら、個人情報保護や医療倫理などの観点から公開が困難であった。しかし、本研究における国内外の医療アーカイブズの管理・公開に関する調査や研究集会、九大内の関係部局との協議などの活動を通じて、九大診療録の公開に必要な手続きや仕組みを試論として示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1990年代以降、医学史研究に新たな進展があり、近年は研究者等の努力によって医療機関所蔵資料へのアクセスが部分的に可能となり、アーカイブズ整備が進むようになった。しかし、誰でも利活用できる状況には至っていない。

九大図書館は、大学法人として初めて医療記録を保管し、公開への取り組みを始めた希有な例である。本研究は、海外に比して遅れている医療アーカイブズの構築・公開の問題を解決する糸口を探るものであり、同様の問題を抱える他機関のモデルを示すだけでなく、市民の利益や医療に関する知見を深め、医学・医療関係者や文系研究者の治療や研究をさらに発展させる可能性をもたらすものである。

研究成果の概要（英文）：This study conducted a survey and research on the disclosure and utilization of medical archives, using the Kyushu University Medical Records and other materials held by Kyushu University, and designed a system for their disclosure and utilization. Although the Kyushu University Medical Records are valuable historical and academic materials, it has been difficult to release them to the public due to concerns regarding personal information protection and medical ethics. However, through activities in this research, such as surveys and research meetings on the management and disclosure of medical archives in Japan and abroad, and consultations with relevant departments within Kyushu University, the procedures and mechanisms necessary for the disclosure of Kyushu University Medical Records were presented as a preliminary framework.

研究分野：アーカイブズ学

キーワード：医療アーカイブズ 医療記録 診療録 九州大学 アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

現在、わが国では「障害や病気などと向き合い、すべての人が活躍できる社会に」をテーマに掲げ、障害や病気を持つ者やその家族を、医療関係者・医療機関、行政、地域社会が支え合い、包摂する社会を目指して様々な施策を行っている。人は誰しも病気や障害と向き合わざるを得ないが、これらの問題への深い理解と重要な示唆を与える学術研究や諸活動を基礎づける医療記録・医療情報がアーカイブズの中に適切に収められ、多様な人々がこれにアクセスし、活用できなければならない。

ところが現状では、医療記録・医療情報(以下、医療アーカイブズ)が公文書館等に収集・保存・公開される仕組みが整っているとは言い難い。例えば診療録のような医療記録は、医師の倫理指針、専門性や個人情報保護等の観点から、作成原課(診療科あるいは医師個人)が慣例として管理を行ってきた。その結果、市民や原課以外の研究者はどのような記録や情報があるのかさえ知る機会もないうちに、それらは死蔵されたままか、あるいは廃棄されてきた。「カルテは誰のものか」という議論が登場して久しいが、公共の利益や説明責任が今後いっそう重視される中で、従来の記録管理の慣例的手法は見直されなければならない。医療アーカイブズの構築および公開の仕組みを作ることは、日本の医療界全体にとっても喫緊の課題である。

そうした中、九州大学は特筆すべき局面に来ていた。2019年3月、九州大学大学文書館(以下、九大文書館)は九大病院精神科神経科から今後の公開を前提に大量の診療録等を受け入れた。これ以外にも、明治大正期の外科、内科、産婦人科、眼科、皮膚科等の診療録を多数有することになる(これらの診療録を総称して「九大診療録」とする)。この中には、先進医療を受けた者や労働災害の患者、旧植民地住民や移民等の患者などの長期にわたる診療記録が存在していた。九大病院が戦前期では数少ない大学病院であり、近代化を支えた工業地域を周辺に持ち、またアジアと深い関係を有することなどを考慮すれば、その資料的価値は計り知れない。国内外を見渡してもこれだけの資料を有する機関は珍しいが、現行の制度では正式な受け入れ(移管)も公開もできないという大きな問題に直面した。

九大法人文書管理規程上、診療録は法人文書(公文書)であるにもかかわらず、法人文書ファイル管理簿に記載されず、基本的に原課での管理に任される慣習があった。こうした記録管理のあり方は九大に限ったものではない。イギリス等のアーカイブズ先進国と異なり、医療記録は公文書館等へ移管され、保存・公開のプロセスに移行する仕組みが整っていない。この問題の理由には、公文書管理法の施行(2011年)から日が浅いこと、アーカイブズ学自体が学問領域として比較的新しいため、文書管理の必要性や意義、方法論が現場に確立していないことが大きい。こうした状況を鑑み、すでに多数の診療録を保管する九大文書館が九大診療録を取り巻く閉鎖状況を打破することは、国立大学法人として社会への説明責任を果たし、公文書管理法を遵守して医療アーカイブズを公開するという、これまでに積み残されてきた大きな課題を解決する先鞭をつけることになると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学が保有する主に紙媒体の医療アーカイブズの公開・利活用に関する研究およびその制度設計を行うことである。他学部以上に、医学部や附属病院が地域社会と密接な関係を有することを考慮すれば、医療アーカイブズの諸問題に取り組むことは公益性において重

要な意義を持つ。また、医療情報が利活用される基盤を整えることは、学際的研究領域の新たな地平を切り拓くことにもなる。

3. 研究の方法

(1) アーカイブズ整備

研究開始にあたり、まず九州大学文書館に保管されている精神科神経科等の診療記録を整理し、仮目録を作成した。作業の過程で診療録の経年劣化、カビや虫損等の被害が多数発見されたため、資料保存スペースの窓に紫外線カットフィルムを貼り付け、業務用除湿機二台の設置、保存スペースの燻蒸等の環境整備を実施した。さらに、劣化の激しい診療録を抽出して電子化を行った。

(2) 医療アーカイブズの管理および公開に関する国内外の調査

COVID-19 の流行により、当初予定していた各機関での実地調査をオンライン調査に切り替え、情報収集およびデータ整理を行った。具体的には、国内外の公文書館、博物館、医療機関等が所蔵する医療記録の取り扱いに関する規則の有無の調査、国内の行政、医療機関・研究所、医学関係研究団体等における医療記録の取り扱いに関する議論の調査、アメリカの公文書館・博物館・大学等における医療記録の取り扱いに関する規則の調査を行った。医療アーカイブズの保存・利活用に関するより良い制度作りのため、当事者の意見を反映すべく、全国精神保健福祉会、全国手をつなぐ育成会連合会、日本障害者協議会の代表者に対して、自団体の資料保存・管理・公開の状況、公文書館等への移管およびそでの公開の可能性や懸念などについて質問を行い、今後の本研究との連携を要請した。欧米圏の医療アーカイブズに関する法令および制度、運営実態の調査を行った。2022年12月にイギリス(ヨーク大学附属ボースウィック・アーカイブズ、エディンバラ王立外科医協会博物館、スコットランド国立公文書館、エディンバラ大学附置ロージアン国民保健サービス・アーカイブズ、エディンバラ王立内科医協会遺産部門)、ドイツ(ヘッセン州福祉連合文書館、ハーダマル旧「安楽死」施設記念館、ルール大学医学史研究所)、ベルギー(ルーヴェン・カトリック大学文書館)で調査・見学を行い、アーキビスト等にインタビューを行った。これらの調査成果は研究集会や刊行物等で発表した。

(3) 研究集会およびシンポジウムの開催

研究集会では、診療録を用いた医学史的研究報告、倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)の観点から医療アーカイブズの公開問題、診療記録・情報の管理・取扱いをめぐる議論およびガイドラインの策定について、知的障害者施設におけるアーカイブズの問題、診療録等の利活用に関する倫理的懸念と患者・市民参画について、国立大学における診療記録管理・保存体制について「公文書」としての九大診療録をめぐる問題、医学研究機関における文書管理・公開の現状および問題点等について議論を行った。本科研と同じく医療アーカイブズの問題に取り組む立命館大学生存学研究所・同大学院先端総合学術研究科との共催で、シンポジウム「医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関わる諸課題と当事者参加」(2022年3月)を実施した。歴史研究者やアーキビストのほか、医師や行政関係者、上記の当事者団体が参加し、医療やヘルスケア等に関するアーカイブズの保存と公開の諸問題について議論を行った。

(4) 九州大学における現用の医療記録等の取り扱いや公開等に関する調査、協議

本研究開始後、九州大学内での再調査を行った結果、戦前期におけるいくつかの診療科の診療簿や患者名簿、手術簿などの医療記録が新たに見つかった。この調査を通じて、関係部局に対し、九大内の医療記録が法人文書ファイル管理簿に記載されておらず、九大法人文書管理規程に沿った運用がなされていないことを指摘し、改善について協議を進めている。

4. 研究成果

上記の研究活動において、本研究では公文書管理法や九大学内規程による九大大文書館の役割、法人文書としての九大診療記録の位置付けに関する議論・検討を行った。また、旧小倉陸軍病院病床日誌を公開する福岡共同公文書館の運用事例がもっとも参考になると考え、精査した。これらの成果を踏まえ、本研究では、九大診療記録の九大文書館での公開は十分に可能であるとの結論に達した。

研究の背景でも述べたが、九大文書館は正式な移管手続きなしに九大診療録を保管している。これらを従来の慣行に従い診療録を非現用として公開せず、ただ退蔵（死蔵）することは、国立公文書館等の施設（九大文書館は2011年に指定）として無責任である。九大診療記録は、九大に残された数少ない貴重な紙資料・原本資料であり、膨大な量の診療記録等を保存する新たなスペースが必要になるわけではない。

これらを前提として、本研究の成果として九大診療記録の公開に至る道筋と公開の方法等を以下に示したい。

原課である医局、もしくは診療録管理室において、九大診療記録を法人ファイル管理簿に登録し、形式上九大病院で保存している状態にする。

その上で、保存期間が満了したことにする（実際はすでに満了期間は過ぎているため、保存期間を延長したことにして満了扱いとする）。

法人文書管理規程に則って、九大病院と大学文書館が協議し、九大診療記録を九大文書館に移管することにする。

原課（医局）等の利用制限に関する意見があればそれを付し、大学文書館に送付する。大学文書館で特定歴史公文書等として登録、目録を公開する。

九大文書館の中に九大診療記録管理委員会（仮称）を設置し、同委員会で利用制限等について随時検討を行う。

実際の利用申請があった際には、大学文書館でマスキング等の作業を行い、資料の提供を行う。

九大診療記録の利用には、一般利用と内部利用の二つの制度があり、原課（移管元）である医局は内部利用の制度を利用する。

～ は遡及的な手続きであり、現在大学文書館にある九大診療記録を実際に再移動するかはともかく、これで現存の九大診療記録の違法状態は解消できることになる。

ここで、上の手続きに関連していくつかの補足説明をしておく。の登録に関しては、九大診療記録のほとんどは目録化されている。原課や診療録管理室での登録業務には、これを活用すればよい。の大学文書館（長）が主宰する九大診療記録管理委員会（仮称）は、大学文書館員（教授、准教授）法人文書の管理に関わる総務部長、同課長、法人文書監理室等の九大本部事務局、関連医局や診療録管理室等の九大病院関係者、九大顧問弁護士等の法曹関係者が主な構成メンバーとなる。同委員会は必要に応じて随時開催されるが、当面は九大診療記録のマスキング部分の指定や方法など、「時の経過」表をどのように適用するかが主要な検討事項となる。患者団体の意見についても、必要ならば同委員会に出席してもらい、そこで議論する。精神科の入院患者病床日誌など、九大診療記録は個人情報のかたまりである。「時の経過」表でも「重篤な遺伝性の疾病、精神の障害その他の健康状態」の判断は140年（福岡共同公文書館では患者名の公開は140年以上）を目途としたい。公文書館は公開可能な部分はできる限り早く公開し、一方で公開できない部分については利用制限の判断をしつつ、将来に向けての保管を継続しなければならない。資料情報の漏洩等がないように所蔵資料を的確なコントロール下に置くことが、館の大きな責任

であり権限である。九大診療記録管理委員会（仮称）は、マスキング作業など、館の実務を最前線で担うアーキビストの司令塔である。

の内部利用については、公文書管理法が「特定歴史公文書等を移管した行政機関の長又は独立行政法人等が国立公文書館等の長に対してそれぞれその所掌事務又は業務を遂行するために必要であるとして当該特定歴史公文書等について利用請求をした場合には、第十六条第一項第一号又は第二号の規定は、適用しない」（第24条）として、移管元行政機関等による利用の特例を認めており、国立公文書館は独自に独立行政法人国立公文書館移管元行政機関等利用細則（2011年4月1日館長決定）を定めている。同制度は、公務員や独立行政法人等の職員がその業務を遂行する上で必要な情報を得るために、国立公文書館等の資料を利用する仕組みであり¹、このような制度がなければ行政機関等の業務遂行に支障が生じるだけでなく、公文書館への円滑な移管が進まなくなることを避けるための制度である²。

九大文書館も特定歴史公文書等の利用規程で規定しているが³、この「九州大学職員等の利用」（内部利用）の制度に拠れば、九大病院の医局員が九大診療記録を用いて従前同様に学会報告などを行うことが可能になる。その意味でも注目すべき制度である。ただし、「九州大学職員等の利用」（内部利用）において生じた問題等に対する責任は、当然のことながら原課（医局）が持つことになる。

通常、内部利用制度の内容としては、一般利用では許可されない書庫への入室、複写料金の免除、簡易な申し込み様式、一般利用者とは別の閲覧スペースの提供などが行われる。利用者が移管元の機関に所属する職員であることの証明として、身分証明書の提示を求めるケースなどが知られている⁴。九大文書館で同制度が運用される際の適用範囲は、九大文書館の特定歴史文書館公文書等の利用規程第27条にあるように、九大の職員等が「その所掌事務又は業務を遂行するために必要である」範囲に限られるだろう。

以上、～の一連の手続きは、法人文書の管理を所掌する本部事務局の総務部長、同課長、法人文書監理室、診療録・診療記録のある九大病院（病院長）、医局（原課）や診療録管理室、医療管理課などの関係部署と大学文書館との綿密な打ち合わせ・会議等を経て、最終的には独立大学法人九大の長である総長の判断に委ねられる。これらの全行程が慎重に進められるべきこととは言うまでもない。

なお、ここに記した研究成果は2024年度中に論文として刊行する予定である。また今後、この試論をもとに大学および関係部局との協議を重ね、九大診療録の公開ガイドラインを策定し、早期の公開を目指したい。

¹ 西村芳将「公文書管理条例が拓く自治体アーカイブズの行政利用の可能性」（『鳥取県立公文書館研究紀要』第8号、2014年）。なお、内部利用制度は移管元の各府省庁が行政文書を利用する場合には行政利用、法人文書等の場合は内部利用とされるのが一般的である。本稿もこの例に倣って内部利用と表記した。

² 前掲西村論文8頁。

³ 九大文書館における特定歴史公文書等の利用等に関する規程（2010年度九大規程第153号、2011年4月1日施行）。

⁴ 前掲西村論文7頁～8頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 David Dominik Chwila, 赤司友徳	4. 巻 46
2. 論文標題 ドイツにおける医療アーカイブズ制度ーヘッセン州社会福祉連合文書館の事例をもとに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 九州大学大学文書館ニュース	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 黒木俊秀	4. 巻 38
2. 論文標題 誰が自閉症を発見したか? アスペルガーとカーナーをつないだ二人、フランクルとワイスの生涯	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 黒木俊秀, 古茶大樹, 西岡和郎	4. 巻 125
2. 論文標題 精神医学古典の展望 - 連載にあたって -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 151-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 黒木俊秀	4. 巻 23
2. 論文標題 中井久夫と発達精神病理学 - 『DSM-V研究行動計画』(2008)の共訳作業を振り返る	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 190-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村江里	4. 巻 2022年7月号
2. 論文標題 帰還兵たちの<沈黙の海>	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 128-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本祥子	4. 巻 70
2. 論文標題 イギリスの医療アーカイブズを尋ねて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学文書館ニュース	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 「隔離」と「療養」の間で コロナの時代に考える近代日本のハンセン病史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 235
2. 論文標題 明治後期～大正期日本の梅毒罹患と地域社会 栃木県塩谷郡喜連川病院の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 463-499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣川 和花、北村 紗衣	4. 巻 17
2. 論文標題 総合討論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Humanities Center Booklet 関東大震災と東大医学部第二外科	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002005627	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本村啓介	4. 巻 37
2. 論文標題 「これが本当の私です」 - 急性躁病における非自発的入院と臨床的ディレンマ -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 60-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣川 和花	4. 巻 109
2. 論文標題 「隔離」と「療養」を再考する : COVID-19と近代日本の感染症対策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 235 ~ 256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34360/00012448	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣川 和花	4. 巻 247
2. 論文標題 ハンセン病歴史研究の新地平を切り拓く 本書の意義と課題」 (書評: 松岡弘之『ハンセン病療養所と自治の歴史』)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本村 啓介	4. 巻 50(7)
2. 論文標題 疾患概念論温故知新；現代の疾患概念論によってKurt Schneiderを批判する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 653-664
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本村啓介	4. 巻 78(10)
2. 論文標題 双極性障害概念の変遷と現在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本臨床	6. 最初と最後の頁 1623-1628
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本村啓介	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 精神疾患の概念と嗜癖	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木俊秀	4. 巻 62(6)
2. 論文標題 精神科診断におけるスペクトラム概念	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 867-874
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 48(7)
2. 論文標題 ハンセン病「隔離」とは何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 163-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 241
2. 論文標題 医療の<近代化>と施療・救済の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤司友徳	4. 巻 44
2. 論文標題 九州大学医学歴史館の建設とその背景	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州大学大学文書館ニュース	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件(うち招待講演 20件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 Experience and Public Discourse of Psychological Trauma in Japan during and after the Asia-Pacific War
3. 学会等名 Workshop on PTSD, Psychiatry, Traumatic Memory (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 War in the Postwar Family: Postmemory of the Asia-Pacific War in Japan
3. 学会等名 Symposium on Intergenerational Transmission of Trauma And Moral Injury as a Consequenece of War (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村江里, 後藤基行, 竹島正, 三野進, 太田順一郎, 中島直, 佐藤真弓, 早苗麻子, 富田 三樹生
2. 発表標題 優生手術への精神科医の関与: 学会員を対象としたインタビュー調査
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保田明子
2. 発表標題 広島平和記念資料館「平和データベース」に入った相原秀二資料について: 原爆被爆映像に関する文書資料・博物館における文書資料の保存と活用に関する考察
3. 学会等名 広島平和記念資料館資料調査研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 「隔離」と「療養」の間で コロナの時代に考える 近代日本のハンセン病史
3. 学会等名 第48回日本保健医療社会学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 廣川和花, 高野弘之, 野上玲子, 松岡弘之
2. 発表標題 明治40年法律第11号「癩予防ニ関スル件」(1907年)下での九州療養所入所者の家族関係の考察
3. 学会等名 第95回日本ハンセン病学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野上玲子, 廣川和花, 高野弘之, 松岡弘之
2. 発表標題 開所期九州療養所入所者の救護費徴収に関する一考察
3. 学会等名 第95回日本ハンセン病学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本村啓介
2. 発表標題 躁病エピソード 執筆担当者より
3. 学会等名 第19回日本うつ病学会総会, 大会企画シンポジウム「改訂版日本うつ病学会双極性障害診療ガイドラインPart1」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本村啓介
2. 発表標題 執着気質とその時代
3. 学会等名 第25回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本村啓介
2. 発表標題 躁病エピソード
3. 学会等名 BPCBNPPP4学会合同年会, BP/CNP企画シンポジウム「双極性障害診療に関するガイドライン」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 折田 悦郎
2. 発表標題 アーカイブスの可能性 九州大学所蔵診療録に関する科研費研究プロジェクトから
3. 学会等名 シンポジウム「医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関わる諸課題と当事者参加」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保田 明子
2. 発表標題 医学研究所のアーカイブズについて: 広島大学原爆放射線医科学研究所の状況
3. 学会等名 シンポジウム「医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関わる諸課題と当事者参加」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後藤 基行
2. 発表標題 医療ヘルスケアアーカイブズの諸課題とその重要性
3. 学会等名 シンポジウム「医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関わる諸課題と当事者参加」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森本 祥子
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 シンポジウム「医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関する諸課題と当事者参加」 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 医療史から読み解く性売買 大正期喜連川病院・米沢福田遊廓の史料から
3. 学会等名 シンポジウム「幕末から近代における性の売買」中部大学人文学部歴史地理学科・大学院国際人間学研究科歴史学・地理学専攻(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 高岡報告・佐藤報告へのコメント(全体会「医療の同時代史」)
3. 学会等名 同時代史学会2021年度大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 日本における感染症史研究の現状と展望
3. 学会等名 第21回日韓歴史家会議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 伝統社会の生存システムと医療の 近代化 栃木県塩谷郡の事例から
3. 学会等名 近現代史研究会第12回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤司 友徳
2. 発表標題 コーディネーター（シンポジウム「日本医学の近代化、その展開と国際性 公衆衛生・国際協力・医学教育 」）
3. 学会等名 2021年度九州史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本村 啓介
2. 発表標題 躁病エピソード
3. 学会等名 第18回 日本うつ病学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本村啓介
2. 発表標題 気分症群
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会，ワークショップ4「ICD-11を適切に使うための知識」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 「隔離」を再考する 近代日本の感染症経験から
3. 学会等名 感染症と歴史学 コロナ時代における歴史研究の果たすべき役割をめぐって (東京外国語大学大学院 国際日本学研究院) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 日本における感染症史研究の現状と課題
3. 学会等名 疫病退散プロジェクト 第3回研究会 (東北大学災害科学国際研究所 災害文化研究分野) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 日本の感染症史研究の現状と課題
3. 学会等名 専修大学社会科学研究所定例研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 山口 輝臣、福家 崇洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 思想史講義【明治篇】	

1. 著者名 岩壁 茂、遠藤 利彦、黒木 俊秀、中嶋 義文、中村 知靖、橋本 和明、増沢 高、村瀬 嘉代子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 1000
3. 書名 臨床心理学スタンダードテキスト	

1. 著者名 日本医史学会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 836
3. 書名 医学史事典	

1. 著者名 スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップワード、安藤 正人、石原 一則、大木 悠佑、坂口 貴弘、塚田 治郎、平野 泉、保坂 裕興、森本 祥子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 続・アーカイブズ論	

1. 著者名 岩城 卓二、上島 享、河西 秀哉、塩出 浩之、谷川 穰、告井 幸男	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 論点・日本史学	

1. 著者名 藤岡健太郎・赤司友徳編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州大学大学文書館	5. 総ページ数 547
3. 書名 九州大学大学史料叢書 第28輯 『臨床と研究』総目次集成三	

1. 著者名 日韓歴史家会議組織委員会, 国際歴史学委員会日本国内委員会 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 公益財団法人日韓文化交流基金	5. 総ページ数 198
3. 書名 第21回日韓歴史家会議報告書「伝染病と歴史」	

1. 著者名 塚原東吾, 綾部広則, 藤垣裕子, 柿原泰, 多久和理実 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 225
3. 書名 よくわかる現代科学技術史・STS	

1. 著者名 日本科学史学会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 758
3. 書名 科学史事典	

1. 著者名 松本俊彦、佐久間寛之、蒲生裕司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 446
3. 書名 やってみたくなるアディクション診療・支援ガイド	

1. 著者名 大森哲郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学樹書院	5. 総ページ数 200
3. 書名 精神医学における仮説の形成と検証	

1. 著者名 吉田 裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 戦争と軍隊の政治社会史	

1. 著者名 Mark S. Micale, Hans Pols	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Berghahn Books	5. 総ページ数 406
3. 書名 Traumatic Pasts in Asia: History, Psychiatry, and Trauma from the 1930s to the Present	

1. 著者名 蘭 信三、石原 俊、一ノ瀬 俊也、佐藤 文香、西村 明、野上 元、福間 良明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 266
3. 書名 社会のなかの軍隊 軍隊という社会	

1. 著者名 神庭重信編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 504
3. 書名 精神疾患の臨床 気分症群	

1. 著者名 井原裕ほか編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 192
3. 書名 心の科学増刊：コロナ禍の臨床を問う	

1. 著者名 秋田茂・脇村孝平・廣川和花ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 人口と健康の世界史	

1. 著者名 藤岡健太郎・赤司友徳ほか編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 九州大学大学文書館	5. 総ページ数 396
3. 書名 九州大学大学史料叢書 第27輯 『臨床と研究』総目次集成 二	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鬼塚 俊明 (Onitsuka Toshiaki) (00398059)	九州大学・医学研究院・共同研究員 (17102)	
研究分担者	藤岡 健太郎 (Fujioka Kentaro) (00423575)	九州大学・大学文書館・教授 (17102)	
研究分担者	廣川 和花 (Hirokawa Waka) (10513096)	専修大学・文学部・教授 (32634)	
研究分担者	中村 江里 (Nakamura Eri) (20773451)	広島大学・人間社会科学研究所(総)・准教授 (15401)	
研究分担者	久保田 明子 (Kubota Akiko) (40767589)	広島大学・原爆放射線医科学研究所・助教 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒木 俊秀 (Kiroki Toshihide) (60215093)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	本村 啓介 (Motomura Keisuke) (60432944)	九州大学・医学研究院・共同研究員 (17102)	
研究分担者	後藤 基行 (Goto Motoyuki) (70722396)	立命館大学・先端総合学術研究科・准教授 (34315)	
研究分担者	赤司 友徳 (Akashi Tomonori) (70774587)	九州大学・大学文書館・准教授 (17102)	
研究分担者	森本 祥子 (Morimoto Sachiko) (80342939)	東京大学・文書館・准教授 (12601)	
研究分担者	徳安 祐子 (Tokuyasu Yuko) (60822757)	九州大学・医学研究院・学術研究員 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------